

問 今はまだ住んでいる家も、将来に向けた空き家相談はできるのか。

答 市は事前相談にも随時対応しており、今後は住まいの終活支援を推進する仕組みについて検討を進めていく。



問 空き家発生前の相談支援と住まいの終活支援について

問 空き家対策は、管理不全になった後の対応だけでなく、相続、管理、売却、解体、家財整理など、まだ住んでいる段階からの不安に寄り添うことが重要である。空き家バンク再開後、市民はどのような内容をどこまで相談できるのか。

将来的に空き家となる可能性のある住宅についても事前相談を受け付けるのか。また、所有者本人や市外家族

に「住まいの終活」や空き家予防の情報を届く形で発信する考えがあるか。

答 空き家バンクは、空き家の流通や利活用を促進する総合窓口として新規受付を再開した。委託先では宅地建物取引士が、維持管理、修繕、売却・賃貸など幅広い相談に助言を行う。空き家発生前の事前相談にも随時対応しており、相続等の専門的な内容については無料弁護士相談等を案内している。

今後は関係機関と連携した終活セミナーや、固定資産税の通知書にチラシを同封するなど、直接的なアプローチも検討していく。

質問した項目

- 空き家発生前の相談支援と住まいの終活支援について
- 地域活性化起業人等の外部専門人材の戦略的活用について



録画配信はこちらから

松村 託磨 議員（無会派）

質問時間 30分

問 観光戦略部として、熊などの鳥獣リスクを戦略にどう位置付けるか伺う。

答 安心感と信頼感は誘客に直結する要素であり、寄せ付けられない対策、早期把握と注意喚起、多言語対応の情報発信を徹底する。



質問した項目

- 部創設に伴う観光戦略について
- 鳥獣被害対策を担う人材確保対策と公共サービス・地域産業への転換について
- 熊侵入防止対策と公共施設・商業施設のバリアフリー確保について

問 鳥獣被害対策を担う人材確保対策と公共サービス・地域産業への転換について

問 若手ハンターの育成には、免許取得後の射撃練習、同行研修など継続的な訓練と経験が必要である。実践型の育成支援制度創設の考えはないか。

答 新規会員の確保と技術継承は喫緊の課題と認識している。市では免許・猟銃所持許可取得支援や講習会開催等で支援しており、今後も猟友会と必要経費等について協議し、外部指導者による

技術講習会の開催も検討する。

問 熊侵入防止対策と公共施設・商業施設のバリアフリー確保について

答 熊侵入防止のため自動ドアを手動化する施設があるが、高齢者や車いす利用者等の利便性低下が懸念される。押しボタン式自動ドアへの改修ニーズ調査や支援制度を検討できないか伺う。

答 押しボタン式への改修はバリアフリーの観点から有効な選択肢であり、市施設では必要に応じて設置を進めている。一方、施設ごとの安全対策は管理者が主体的に行うべきものと考え、改修ニーズ調査や支援制度の創設は考えていない。



録画配信はこちらから

赤坂 勲 議員（新時代かづの）

質問時間 30分

一般質問 赤坂 勲議員（新時代かづの）